

第1回 校長会議あいさつ

R5.4.4 稲垣

空の色、木々の若芽、街行く人の装いと、やわらかな彩に心浮き立つ季節を迎えました。学校においても新たなメンバーを加えて、新学期への期待感に満ちていることと思います。子どもたちのために全教職員が一丸となって、気持ち良く教育活動に邁進できるようにご配慮ください。

本日は、年度当初にあたり、学校教育の今後について、3点お話しします。

1点目として、本年度の教育活動についてです。コロナ禍による教育活動に対する制約は、緩和傾向にあります。GW明けからはコロナも5類となり、出席停止等の対応も、おそらくインフルエンザと同様に移行していくものと思われます。今こそ、学校教育の豊かさを取り戻すべく、本来の教育活動の回復に努めなくてはなりません。その際、各々の教育活動の価値を再確認しながら、精選や改善を図り、適切な教育課程を再編することが求められます。

また、学校でのマスクの着用が不要となりました。疾病等の理由による着用は別として、文科省通知の教育的意図を汲み、子どもたちにはマスクを外していく方向で指導したいと考えます。マスクによって表情が見えにくいことは、言語によるコミュニケーションの未熟な低学年にとっては、人間関係づくりの妨げにもなり得るし、思春期を迎え他人の評価や思惑を量ろうとする生徒たちでは、突っ込んだ会話や喧々譁々の議論に戸惑いを感じてしまう可能性もあります。さらには、歌唱や朗読など、音声表現活動においても支障になっていることは明らかです。学校が本来の明るさや温かさを取り戻していくためには、たくさんの笑顔が見られることはとても大切です。教師が率先垂範しながら、子どもたちにもノーマスクが無理なく広がっていくようにお願いします。

2点目は、学校経営に位置付けたい二つの力のことです。「教育大綱への思い」の中でも述べたように、子どもたちには、①「新たな能力を取り込む力」と②「忍耐力」を培わせることが重要な教育課題と考えています。それに取り組むために必要な教育活動を年間計画に位置付けたいものです。

①では、問題解決プロセスを導入した単元づくりやプログラミング学習などが有効です。また、②のために、子どもの心や体を鍛える教育活動の工夫では、子どもたちを夢中にさせたり、強い達成意欲をもたせることがポイントになります。以上の価値は、既存の教育活動に内包されていることも多いので、改めて指導改善を意識して学校経営案にも記載していただければと思います。

3点目は、働き方改革についてです。働き方改革は、端的に言えば、労働者が幸せになるための手立ての一つですが、時に目標と勘違いされ、あまつさえ錦の御旗の如く掲げられることさえあります。私たちの教育現場では、超過勤務時間の縮減のみに拘った改革では、誰も幸せにはなりません。子どもたちに注がれる教師の熱量と勤務時間との間に相関関係がないわけがありません。勤務時間外の自主的な研修によって、プロとしての力量を向上させているのは、教師に限ったことでもありません。子どもたちに長年寄り添ってきた私たちは、この現実の二律背反性を誰よりも実感していることと思います。このジレンマの上に立ちながら、教育改革の中での働き方改革をどう進めていくかを模索しなくてはなりません。このロジックを教職員全員が共有し、「教育の質を低下させない働き方改革」を具現化して、「子どもたちが未来を幸せに生き抜くための心と力を育む」という教育の本分を全うしたいと強く願います。

昨今、家庭の経済格差が教育格差となっていることが、しばしば話題となりますが、国民に等しく公平であるべき義務教育の現場を預かる私たちは、その悪連鎖が浸潤しないように最大限努力しなくてはなりません。部活動の地域移行にせよラーケーションにせよ、教育現場でそれを扱うにあたっては、教育の公平性は言うまでもなく、子どもたちや保護者の心情を慮りながら、慎重に進めていきたいと思います。